

令和元年度 自己改革への取り組み状況について

JA 大北では、組合員・地域に愛され支持される JA であり続けるため、将来を見据えた自己改革に取り組んでいます。

「自己改革」は、地域農業の繁栄とくらしに JA がなくてはならない組織であることを目指す改革です。組合員・地域とともに一步先の JA をめざし、令和元年度は「JA 大北長期構想・3 カ年計画（2019～2021）」のもと、下記の取り組みを行ってまいりました。

(1) 農業生産基盤の強化による産地の維持

農業者の所得増大を図るため、生産資材コスト低減や機械化による作業の省力化などのほか、農家に寄り添った支援の充実化を図り、稼げる農業の提案をすすめました。

- 開発メーカー等と連携し、農業散布用ドローンやボート、無人トラクター、ラジコン草刈り機など、スマート農業関連の技術紹介・導入支援を行いました。
- 農家の農作業支援として支所やセンター、直売所、ホームページで農作業求人情報を掲載し、求人情報の発信を行い、労働力確保に努めました。
- 行政と連携し、昨年 4 月に大町市常盤の農産物直売所「ええっこの里」に開設した「農ある暮らしサポート直売所」を起点とした、営農指導・就農・移住相談体制を確立しました。（令和元年度は栽培講習会を年 2 回開催、移住や観光情報の相談を 28 件受け付けました）
- 中小規模農家・直売所出荷者などのコスト削減、作業の省力化と利便性向上、機械故障による離農を防ぐため、レンタル農機などのリース機を導入し、推進を図りました。
- 営農指導員の巡回体制の強化と、各農作物の時期に応じた現地での栽培講習会などを管内各地で開催しました。
- 直売所の新規出荷者や重点栽培品目における新規栽培者・栽培面積拡大者などへの苗代の助成、機械等の貸し出しなどを実施し、園芸振興に努めました。
- 農家所得増大のため、一括仕入などによる低価格仕入を行い、生産資材コストの低減化に努めました。
- 担い手農家のニーズなどに対応するため、常勤役員や農家対策支援室、各支所所属長、営農指導員による定期的な訪問活動を行いました。



ラジコンボート防除実演会（大町市）



農ある暮らしサポート直売所開設
（大町市・ええっこの里）



ジュース用トマト栽培講習会

(2) 組合員との JA のつながり強化

組合員の皆さんから寄せられた声を明瞭化し、それぞれのライフステージやニーズに応じたサービスの提案や対応の強化、食や農を通じた組合員・地域とのつながりの充実を図りました。

- 直売所での食農イベントや大感謝祭、農畜産物・農産加工品見本市の開催、ネットショップの開設を通じた地場産農産物や加工品のPRに努めました。
- 移動購買車を用いた山間地への生活用品・食料品の販売により、買い物弱者を無くし、安心してくらす地域づくりへの貢献に努めました。また、地域の「見守り活動」としての役割も担っています。(現在2台体制で運行)
- 准組合員の意思反映・運営参画に取組み方針を策定し、「JA自己改革の取組み状況や協同組合(JA)に関する情報」を発信しました。
- 次世代を担う子どもたちに農業の大切さを知ってもらうため、実際に定植や収穫を体験する活動等を実施しました。
 - ・JA青壮年部によるチャイルドファーム(池田町)
 - ・安曇野まつかわ農業小学校による食農教育(松川村)
- 県内の小学生などを対象とした「第2のふるさとづくり」を目的とした都市農村交流を実施しました。
- 年金友の会主催のゲートボール・マレットゴルフ大会やはつらつ講座、女性農業大学の開校など地域住民同士の仲間づくり活動を実施しました。
- ペーパーレス、キャッシュレス対応による各手続きの簡略化を図りました。
- 支所の統廃合による貯金等の金融手続きを補完するため、移動金融店舗車を用いた各地区への巡回を行いました。



移動購買車車両更新(大町市・小谷村)



トウモロコシ収穫祭(池田町)

(3) 総合事業を支える JA 経営基盤の確立

総合JAとしての経営力の向上による事業利益の確保と、内部管理体制の高度化により、より信頼されるJAづくりに向けて取り組みました。

- 事業効率化による収支改善を図るため、施設の整備・人員体制の見直しを行いました。
 - ・八坂、美麻、中土、北小谷支所を取次所とし、移動金融店舗車・取次所にて補完をしました。
- 管理費を削減、事業の効率化を図るため、会議体の見直し、Web会議システムを導入しました。
- 働き方改革への対応、労働生産性の向上、各職員の労働負担を軽減するため、仕事内容、繁忙期対応時の働き方の改善、各施設の営業時間の見直しなどを行いました。
- 不祥事等未然防止と事務統一による事務の正確性の向上のため、適切な職場離脱を実施しました。
- 内部統制の徹底により、業務の統一等を図り、業務の効率化に取り組みました。



連続職場離脱による職員農業体験